

登山・登攀の記録

北アルプス 槍ヶ岳硫黄尾根

日時:2001年12月22日~12月30日

メンバー:L新谷岳史、井田陽介、牛田一成(顧問)

概要:当時2回生だった井田、新谷と牛田顧問による冬合宿。脆い岩登り、深いラッセル、そして暴風雪の中での中崎尾根の下降とかなりハードな山行だった。私はこの冬山から6年たった今でも、この硫黄尾根以上に困難な山行を成し遂げられていない。

記録

12月22日 雪(徐々に回復)

出発(6:15)~七倉(7:05)~高瀬ダム(8:55)~湯俣(14:20)

信濃大町に着くと、雪が激しく降っていた。暗い中、葛温泉からとぼとぼ歩く。高瀬ダムの途中からトレースがなくなり、先行していたJECCに追いつきラッセルを手伝う。湯俣清風荘の冬季小屋の中JEC Cといっしょにテントを張った。

12月23日 朝のうち雪後晴

出発(7:00)~硫黄尾根上(8:35)~硫黄岳前衛峰群P1-P2間(15:20)

朝からわかんをつけて出発。水無川の左岸を取り付き点を探しながら15分ほどのぼると、岩が途切れていて草付になっている斜面を見つけた。アイゼンに履き替え、藪と格闘しながら登ること15分で広く幕営可能な尾根に出た。はじめは雪も少なくアイゼンで快調に進むが、徐々に雪が深くなりわかんをつけてひざ下~上のラッセルになる。硫黄岳前衛峰群P1を越えたあたりでテントをはる。

12月24日 雪夕方回復晴

出発(7:20)~P3(10:15)~P6(14:00)~小次郎のコル(15:30)

雪が降っているが視界もあり十分行動可能。今日はアイゼンをつけて出発。P2はザイルを出して千丈沢から巻く。ここからP3基部までコンティニューアスで100m。ラッセルが深い上に藪が出てきてしんどい。P3は井田トップで首までのラッセル30分近くかかる。ビレイしている僕は寒い。P3からは千丈沢側に懸垂下降40m、そこからどラッセルで尾根に登り返してP4に着く。P5の登りも肩までもぐり、

目の前の雪面を切り崩す作業に終始する。P5からは僕がトップでフィックスを張って下降。P6からの下降も藪交じりのクラストした急斜面でクラスト層は簡単にわれ、その下はさらさら雪で際限なくもぐっていく。砕氷船のごとく氷を割りながら進み、何とか小次郎のコルにたどり着く。

12月25日 晴

出発(7:10)~硫黄岳(14:15)~硫黄台地(15:30)

朝からわかんを付けて出発する。相変わらずラッセルは深くしんどい。しかし天気はよく北アルプスが一望できる。急雪壁では胸~頭までのラッセル。途中岩混じりの雪壁が出てきたので、牛田先生トップで1ピッチ出す。うんざりしてくるラッセルをえんえんと続けてようやく硫黄岳直下にたどり着く。牛田先生トップでラッセルしていると、僕と牛田先生の足元から音を立て雪庇が湯俣側に崩壊していった。怖かった。硫黄台地で幕営。

12月26日 雪のち地吹雪

出発(7:20)~赤岳前衛峰群P5(15:15)~P4から少し下ったところ(16:00)

少し吹雪いていて天気はあまり良くないが、視界はまあまあなので出発する。右のルンゼをみると、フィックスロープとレリーフがあった。おお、これが雷鳥ルンゼやな。降りたところから左にトラバースして尾根に戻る。天候が徐々に回復してきて、晴れてくる。南峰からはクラスト層を割りながら湯俣側の斜面を下る。空荷で偵察に行き赤岳前衛峰群P1、P2が湯俣側から巻けることを確認して進む。P3は稜線どおしに行く、容易。P4は井田がリード。

登山・登攀の記録

P4からの下りで、整地すれば何とかテントがはれそうな場所があったが、まだ早いので先を急ぐ。P5も井田がリードするがスラブ状の岩に薄くさらさらの雪が乗っているだけでとっても悪い。懸垂支点にザイルをFIXして懸垂で戻る。P4に登り返し、さっき見つけたサイトを整地してテントを張る。

12月27日 雪

出発(7:30)～中山沢のコル(15:30)

昨日張ったFIXをユマーリングしてP5にあがる。ここから懸垂20m+45m。P7僕がルートファインディングに左右往生しながらリード。ほぼ稜線どおし。ピークからは湯俣側のルンゼを懸垂下降、トラバースして登りかえしP7-P8間のコルに出る。ここからは千丈沢側を少し下り、ルンゼを登る。登りきったところはナイフリッジで牛田先生がリードで1ピッチ張る。そこからはまた千丈沢側を下り、ルンゼをはいあがる。あがったところからアングル一枚を残置し湯俣側に懸垂下降(30m)する。湯俣川側の雪質はすぐに割れるクラスト層の下にぜんぜんしまっていないさらさら雪が詰まっており、もがいているうちにその下のガレ場が出てくるという最悪の雪質で嫌になる。何とか尾根に上がり中山沢のコルにクライムダウンし、テントを張る。夜にはテントが埋まりろうそくがつかない。しかし僕と牛田先生はヘッドランプの予備電池が残り少なくなってきたので寒いけれど入り口を開け、何とかつくようにする。夜中には息苦しくて目がさめてベンチレーター全開で寝る。

12月28日 雪夕方から晴

出発(7:55)～赤岳主峰群 I 峰(15:30)～II 峰手前(17:30)

吹雪いていて天気は昨日より悪く、雪質も悪い。普通なら停滞だが、最終下山日は31日なので今日を入れてあと4日。行くしかない。中山沢のコルからは右側のルンゼを上がる。ルンゼをあがりきったところからは千丈沢側のルンゼを上がればラッセルの苦労のみでI 峰までいけそうだが、この雪質では危険すぎる。正面の岩場を直登する。僕と井

田はいまいちルートを把握しきれてないので、牛田先生にトップをお願いする。1ピッチ目はチムニーから雪壁を登る40m。2ピッチ目も同じ様な雪壁を登り尾根上に出る。3ピッチ目は細い雪稜。4ピッチ目は千丈沢側をトラバースする。ここを登りきると5ピッチ目は井田がリードしていた。ここは出だしの岩場はもろい上に傾斜が強く、そこを抜けたところからは垂直に近いふかふか雪の雪壁となる。硫黄尾根中で最悪のピッチだった。ここを登りきったところでようやく赤岳主峰群 I 峰だが時間はなんと15時半。このピークだけで一日が終わってしまいそうである。気を取り直して懸垂下降し、わかんに履き替えトップを空荷にしてII 峰に向かってラッセルし、暗くなりかけたころII 峰の肩にサイトを見つけてテントを張った。

12月29日 晴のち地吹雪

出発(6:50)～西鎌尾根に出る(12:30)～千丈沢乗越手前(18:15)

天気も雪質も良くなっている。II 峰はテントサイトから湯俣側をトラバースして巻く。III 峰は千丈沢側から大きく巻く。IV 峰は千丈沢側から巻いたが湯俣側から巻くのが正解だった。わかんに履き替えV 峰の急登にさしかかる。急雪壁のラッセルは頭の高さまでありつらい。白樺台地を過ぎると西鎌尾根に出た。取り付いてから7日目ようやく抜ける。ここまで長かったなあ。やれやれ。しかし西鎌尾根に出るとラッセルはなくなったがとんでもなく風が強い。地吹雪状態で飛ばされた雪が顔にあたって痛い。まつげにツララができていく。暗くなりかけたころようやく千丈沢乗越が見えてくるが、ルートを千丈沢側に取りようになり所々ラッセルとなる。一ヶ所風当たりが弱く、テントが張れそうなところがあり、テントを張る。テントの中で携帯が通じることが分かり、在京の中西さんに連絡し、無事を伝えることができた。携帯で明日の予想天気図を見てみるとなんと三陸沖に爆弾低気圧。まあここまできているのだから大丈夫であろう

登山・登攀の記録



赤岩岳主峰群V峰に向けてラッセルする

見える灌木を頼りに何とか下っていくが、つらい、早く樹林帯に入りたい。蒲田川右俣側には雪庇が張り出しているそうだが、いくら目を凝らしても雪面と空の境界線が見えない。結局、牛田先生の判断で飛驒沢にむかって下降。すぐにラッセルとなるが視界は良くなり、風も弱くなった。槍平直前で井田はばててきたので、一人ラッセルしていくとテントを張っている人たちが見えた。必死のラッセルでテントまでたどり着く。ふらふらで、一人、空荷でやってきた僕は、おじさんに“なにか(遭難事故が)あったの”と聞かれてしまった。おじさんに槍平から新穂高温泉まではトレースがあるとされたときは、ここに着く直前は本気でもう一泊を覚悟していただけに、本当にうれしかった。槍平からは頭の中を空っぽにして歩く。穂高平あたりから完全に真っ暗となり、ヘッドランプをつけるがすぐに電池が切れてしまう。新穂高温泉に着いたのは最終バスが出た後だった。

12月30日 雪

(記／新谷)

出発(7:50)～千丈沢乗越(8:30)～槍平(13:45)
～新穂高温泉(18:30)

3時頃強風がテントを揺らし始める。このままではやばそうなので3人ともおきてテントを支える。緊急時に備えて靴を履き、いつでも外に出られるようにしておく。どうやら寒冷前線が通過中らしく、雷がビカビカ光っている。7時半ごろ風が弱まりかけた(気がする)ので順番にパッキングし、風の間を見計らい、意を決し外に出る。視界は10mぐらいだが地形は昨日確認している。絶対に降りてやると心に決めて出発。吹きだまりの部分のラッセルを終えると、すさまじい風が吹き荒れている。耐風姿勢を取ったまま一步も動けない。千丈沢乗越まであと15メートルくらいなのに…。風の間をついてじりじり動くが僕は一度完全にふっとばされてしまい井田に激突して何とか止まる。ほとんど匍匐前進状態で千丈沢乗越にたどり着く。ここからは右寄りに飛驒沢を下ったあと、トラバースして中崎尾根にでる。飛驒沢から吹き上げる風が強く、目を開けてられない。中崎尾根もほとんど視界がなく、時折